

正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Since 2020

第282回

桂 歌丸

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和3年11月29日

編集委員：入試広報室 鈴木



今回の言葉

人を泣かせることと人を怒らせること、
これはすごく簡単ですよ。人を笑わせること、
これはいっちゃん難しいや。

桂 歌丸は、日本の落語家。位階は従五位。勲等は旭日小綬章。本名は椎名 巖。公益社団法人落語芸術協会会長、横浜にぎわい座館長などを歴任した。

Column

落語という人を笑わせることを生業とした世界で“師匠”と呼ばれるほどの人物が発したものとは思えないようなフな口調ではありますが、芸の道の難しさとプロ意識を感じる非常に“重い”言葉です。

歌丸師匠といえば、歴史が深い大喜利の番組である『笑点』の司会を歴任した人物として有名ですが、番組を見た時に『全員で笑いを成立させる』ということに全力で取り組んでいるという印象を受けました。大喜利のお題に対する答え一発で笑いを起こす時もあれば、答えたあとに巧みな話術やリアクションで盛り上げて笑いを起こしたりします。これを司会者の歌丸師匠だけでなく、出演者全員が絶妙なタイミングで動くことで、大喜利としてだけでなく演劇のような『エンターテインメント』を感じさせます。

演芸の世界の中の落語というひとつのスタイルの中で、その歴史や品位を守りながら必ず観客や視聴者を喜ばせるという作業はまさに『至難の業』だと思います。それを1966年から毎週挑戦し、毎週成功させているわけです。とんでもない番組だと思いますし、世界で最も長く放映されているテレビ演芸バラエティ番組としてギネス記録を保持しているのにも納得です。これだけ長くファンを魅了し続けられる秘訣としては、緻密な計算や仲間との強固な信頼関係、チームワークだと思います。スポーツに携わる私としては、そこが見えることが人々の感動を呼び、勝負する相手へのプレッシャーにもなるという世界に生きていますが、演芸の世界においてはそこが見えてしまうのはきっと『負け』なんだろうと思います。“みなさんを笑わせるために頑張ってきました！それでは大いに笑ってください！スタート！”で笑えるはずがありません。ただ、観客や視聴者は『さあ、笑わせてもらいましょう！』と思って会場やテレビの前にいるわけですからプレッシャーも並大抵ではありません。笑うというリラックスした感情を引き出すために真逆の“闘志剥き出し”で挑むことは長年のキャリアがあっても大変で難しいのですね。今後も私たちは人生の中で何度もピンチを迎えることでしょう。その時に『難しいや』と言ってしまふ“余裕”を少しだけでも持ちながら、大切な仲間たちと協力して立ち向かい、多くの素晴らしい経験を積み上げていきたいものですね。